

第 62 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2020. 7. 3 熊山 ともみ

『ソリクア配合注ソロスター』

サノフィ株式会社 吉田 知明さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、味田村 俊次、木村 亜希子、鈴木 里奈、吉井 智子、清田 好美、鈴木 亜湖、小林 昌美、熊山 ともみ

近年増加傾向にある 2 型糖尿病は進行性の代謝疾患であり、ライフスタイルの改善と薬物療法の組み合わせによる段階的な治療アプローチが必要となっている。ソリクアはインスリン製剤と GLP-1 受容体作動薬（GLP-1 アナログ製剤）の配合剤で、国内ではゾルトファイ配合注に次いで 2 製品目である。

【効能・効果】

インスリン療法が適応となる 2 型糖尿病

【用法・用量】

通常、成人には、5～20 ドーズ（インスリン グラルギン/リキシセナチドとして 5～20 単位/5～20 μg ）を 1 日 1 回朝食前に皮下注射する。ただし、1 日 1 回 5～10 ドーズから開始し、患者の状態に応じて増減するが、1 日 20 ドーズを超えないこと。

なお、本剤の用量単位である 1 ドーズには、インスリン グラルギン 1 単位及びリキシセナチド 1 μg が含まれる。

【禁忌】

- 1 本剤の成分又は他のインスリン グラルギン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2 低血糖症状を呈している患者
- 3 糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1 型糖尿病の患者 [インスリンのみを含有する製剤による速やかな治療が必須となるので、本剤を投与すべきでない。]
- 4 重症感染症、手術等の緊急の場合 [インスリンのみを含有する製剤による血糖管理が望まれるので、本剤の投与は適さない。]

【副作用】

主な副作用は、ソリクア群で悪心 20 例 (12.4%)、下痢 7 例 (4.3%)、腹部不快感 5 例 (3.1%)、食欲減退、嘔吐が各 4 例 (2.5%) 等。

【特徴】

・日本人 2 型糖尿病患者の病態を考慮した日本独自の配合比

インスリングルルギン 1 単位 : リキシセナチド 1 単位

個々の患者の状態に合わせて、1 ドーズごとの調節が可能。

・低血糖や体重増加リスクを抑えながら空腹時血糖、食後高血糖を改善

・リキスミア単独群に比べて、ソリクアから開始の方が悪心副作用の発現が少ない。

【考察】

インスリン、GLP1 関連、週 1 タイプ、デイリータイプなど注射剤が多く発売になった。取り間違い無い様、また配合比や効能、副作用について再確認が必要。

ソリクア導入時は 5~10 ドーズから開始のため多く発生する悪心の副作用が少ない。52 週までの試験では初期に比べてだんだん悪心 (胃腸障害) の副作用が増えているため (ドーズ増量も伴っている症例もあるが)、初回だけでなく、継続した副作用モニタリングが必要と考える。

○Q&A

ソリクアを 20 ドーズ以上に増量したい場合、インスリングルルギン注を併用することは可能か？

→今のところは併用不可。